



(1) 揖斐川橋梁工事、假棧橋架設

揖斐川橋梁工事の新記録

關西線揖斐川新橋梁は昭和3年1月9日 No. 15 橋脚の Air on を最初こし同年5月30日 No. 1 橋脚の Air off を最後こして壓搾空氣潜函作業を完了し、同年6月5日最後の混凝土打を以て下部工事を完成せり。(此間僅かに158日)

下部工事の方法は大體木曾川の場合と同様なれども其経験に依り多少の改良を加へたるものにして其主なるものを記せば次の如し。

混凝土は木曾川下部工事終了後種々調査研究の結果其設備材料配合其他に大改良を施し著しく「セメント」の節約をなし且つ工事の進捗を助けたり。始めて Blaw Knox Inundetars を用ひ又冬季中砂、砂利を Steam にて熱し水の代りに湯を用ひたり、又砂、砂利の溜より「コンベーヤー」に砂、砂利の feeding を迅速にする爲め derrick にて clamshell bucket を用ひたり。木曾川に於ては鋼製部を用ふる水中潜函と、築島上の陸上潜函との二種のみなりしが、揖斐川に於ては此他に Lackawanna Steel Sheet piling にて締切をなし、其中

にて陸上潜函を築造する方法を二橋脚に試み工費の節約に成功せり。

陸上潜函の作業室の鐵筋の代りに鐵骨を用ひ、工費の節約及工期の短縮を圖れり、尙ほ Cement Sack Shaker (セメント袋清掃機) を作製し袋に附着せる最後の「セメント」粉末に至るまで之を利用せり。

下部工事の完成せざる3年4月11日既に第15徑間の組立を開始し引續き同年5月16日第4徑間の組立を終了し、殘る所は第1乃至第3徑間及第16徑間の洪水の危険無き部分のみとなりたるを以て5月21日 No. 4 橋脚附近より假棧橋鉄桁撤去を開始し、5月31日低水敷の鉄桁全部を撤去し、7月12日には木造橋脚の撤去を完了し、全く洪水の危険を脱却せり。

斯く構桁架設に假棧橋及其上の可動式棧臺上の derricks を利用したる爲め工期と工費を減少したるこゝ著しきものあり、200呎構桁1連を一日にて組立てたる記録を作れり。

揖斐川新橋梁は3年10月開通の豫定なり。